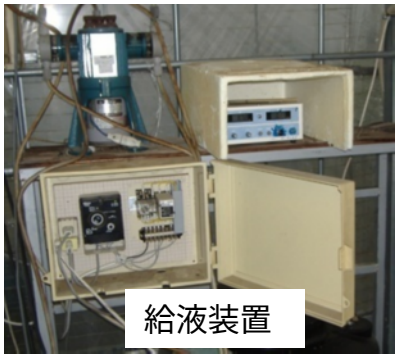
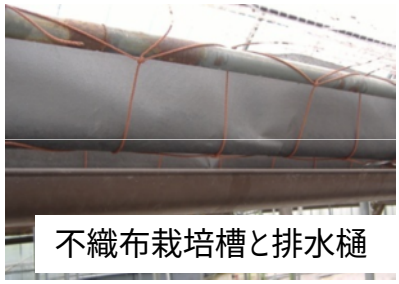
イチゴの高設栽培システムを開発しました

　イチゴは価格の変動が少なく、生産が安定し収量が確保できれば優良な経営が成り立つ極めて有利な作目です。一方、栽培は土耕栽培が主流であり労働時間が多いことに加え、作業姿勢は育苗から本ぽまで屈み姿勢が多く腰痛など生産者にとっては重労働となっています。そこで、当センターでは生産者に導入しやすい低コストで、作業姿勢の改善された軽作業化が図れ、しかも高収量が得られる高設ベンチ栽培システム「岐阜県方式」を開発しました。

「岐阜県方式」の主な概要

(1)栽培槽
　培地量1L/株の少量培地による不織布製桶状栽培槽
(2)ベンチシステム
　19mm直管パイプ組み立てによる3条ベンチ、2条片なりベンチ、2条外なりベンチの組み合わせ（ハウスの間口に合わせて組み合わせ）
(3)給液装置
　原液2液方式（（生育時期により組成、濃度を変更）：3段処方
　廃液感知型給液制御装置で曇雨天時の無駄な給液をカット
(4)根域加温
　栽培槽内に13mmの塩ビ管を埋設し、温湯により根域加温（変温管理）
(5)その他の装備
　炭酸ガス補充装置、ハウス内加温装置、攪拌扇、電照装置、二重カーテン、ベンチ下ビニルの展張、廃液槽等


給液装置


不織布栽培槽と排水樋

収穫期の生育状況

（研究成果）
- 土耕栽培と同程度の栽植株数が確保でき、冬期寒い岐阜県においても草勢維持と多収穫が確保できます。
- ベンチは自家施工が可能で、ハウスの間口、連・単棟等のハウス形状に合わせてベンチを配置します。
- 培地を毎年更新（少量培地で培地は安価なヤシガラ）するため、培地消毒が必要なく、花芽分化前定植（本ぽで根を張らせて窒素中断）ができます。
- システムの設備費は10a当たりで約450万円で、県内27戸・4.7ha（H20）で導入されています。

（岐阜県農業技術センター　野菜･果樹部）